



4/21(日)新アプリDiscordの勉強会が開催されました(本文5P参照)

チャンプニュースレター103号 目次

○山本代表のメッセージ	2
○アメリカよもやま話	山本優子	3
○第90回例会報告	4
○関西支部6月例会報告	岡田 優	4~5
○新アプリDiscord勉強会を開催	中林由行	5
○次世代チャンプの会に関する運営委員会報告	安斉洋一	6
○会員スピーチ「手描き人生マップ」	田邊直子	7
○久しぶりのゴルフ愛好会	森田宏次	8
○初めての個展を開催	小松原京子	8
○活動会メモ	8
○次回例会・納涼会案内・編集後記	8

(6/05/2024水曜日関西チャンプ例会京都にて配布に加筆)

7/15付更新メモ：6/27（木）CNN主催のBiden vs. Trump討論会でのバイデン大統領の失態が、支持者層に衝撃を走らせ、同氏の大統領選からの撤退を促す動きが続いている。しかしバイデン氏自身が自発的に撤退表明をしない限り、適格な代替候補がないまま、8月の指名候補に至るであろう。しかも6/28～7/02 Real Clear Politicsによると、トランプ支持47.5%、バイデン同44.2%と討論会前とほぼ同じだ。今後、無所属・若者・マイノリティー層の票田がどのように動くかが焦点となる。また、7/13（土）トランプ集会での銃撃事件が大統領選に多大な影響を及ぼすのは必須だ。

アメリカ経済と大統領選挙：

消費者物価指数（CPI）：2022年6月前年同月比9.1%の上昇率となり40年振りの高水準を記録したがその後改善、2024年4月は3.36%（3月は3.48%）。しかし2024年には、庶民を直撃するガソリン代1.4倍、電気代は1.3倍となった。

Wall Street Journal紙の3/17～3/24世論調査によると、11月の大統領選の勝敗を左右すると言われる7州の激戦州（**AZ,GA,MI,NV,NC,PA,& WI**）の内6州でトランプ前大統領の支持率がバイデン氏を上回った。63%が今の米経済を「悪い」、74%はインフレが「悪化した」と答えた。しかしながら1～3月期の個人消費（対GDPの67.6%）は前期比年率2.5%の高い伸び率を持続し、失業率は2年以上も4%を下回っている。バイデン政権と庶民の経済情勢に関する感覚の乖離か。

ウクライナとガザの近況が与える影響：

ウクライナ支援を直ちに中止しよう提唱するトランプ氏と、支援継続を訴えるバイデン氏の政策も大きな視点だ。ウクライナとNATOに対して、各国の自己防衛力強化を主張するトランプ氏と同盟国重視の協力を支持するバイデン政権の違いも大きい。第二次世界大戦終了後のトルーマン大統領以降、イスラエル支援を続けてきた米国政府はガザ攻撃（イスラエルにしてみればハマスの攻撃に対する報復措置）においても窮地にある。ガザ南部ラファ地区における飢餓状況は国際的な批判を集め、米国内の大学キャンパスでの広範囲な学生デモ活動を引き起こし、Z世代の票を民主党は失いつつあり、減票はマイノリティー市民層にも拡大している。歴史的に民主党の票田であったこれら有権者を失えば（或いは彼らが棄権すれば）、トランプ氏共和党の勝利を助けることになる。

注釈：なぜアメリカはイスラエルを支持するか？ 人口比率が2.4%（760万人）とわずかなユダヤ系市民であるが、ホロコースト以後、ユダヤ系の人々は子供の教育に力を注ぎ、裁量に長けたビジネス手腕（エンタメ業界含む）において多大な富と影響力を構築し、共和・民主両党への政治的圧力は多大という背景がある。大統領選のその他論争点としては、★中絶禁止令 Abortion Ban（トランプ氏は中絶禁止令奨励、バイデン氏は反対）など。

チャンプ第90回例会報告

5月22日（水）チャンプ例会が新橋の生涯学習センターで14:00～16:30に開催されました。参加者は会場17名、ZOOM4名でした。

安齋委員長の開会の挨拶の後

●「アメリカよもやま話」 山本代表（詳細は3P参照）

●「次世代チャンプの会（仮称）」について 山本代表

3月の第1回会合で次世代会員からの具体的な提案を踏まえて、さらに検討を進めたい。タスクフォースを組織し期限を切って、次世代チャンプのコンセプト、組織、運営方法などを詰めてゆきたい。シニア会員も協力してほしい。（詳細は6P参照）

●会員スピーチ： 田邊直子会員

「ヒストリー（歴史）からストーリー（物語）を引き出す：手描き人生マップ」についての講演。

（詳細は7Pを参照）

●納涼会予定について 山本代表

8月18日（日）目黒雅叙園で開催予定。

（詳細は8P 参照）

●活動会報告

「英語の会」「コーラスを楽しむ会」「ゴルフ愛好会」の報告、「健康と栄養の会」の継承を検討したい、等。



チャンプ関西支部6月例会報告 岡田 優

日時： 6月5日（水） 17:00～19:30

会場： 京都 北山『開晴亭』

幹事： 辻様、共同幹事：岡田

参加者： 山本代表、木下支部長、浅野様、沖様、加納様、辻様、藤原様、前田隆彦様、増井様、岡田（長田様は病院と重なってしまいご欠席）の10名でした。

今回は、以前予約しておきながら人数が予定より増えて会場変更せざるを得なかった京都の「開晴亭」をリベンジで予約し開催しました。前例会にて決まりました様に、メンバーの「普段の活動テーマ」を順に具体的に紹介して頂き、メンバー間で少しでも深く知り共有する事から始めようという事になり、まずは木下支部長から「（仮称）私達のこども食堂」というテーマで活動紹介をして頂き皆でその知見を多少なりとも共有しました。

①「アメリカよもやま話」／山本代表

＜A4資料 1枚配布＞10分（詳細は3P参照）

② 「（仮称）私たちのこども食堂」について／

支部長 木下正二郎様（40分）

＜レジュメ等A4 2枚 配布、美味しく楽しいであろう料理の写真集 回覧＞

■きっかけは7～8年前のこと 夏休みが終わると痩せる

子供がいる。或いは夏休みにゴミ箱を養う子供がいるのを目撃。…何故か!？、夏休みは給食が無い＝食べるものが無いのだ。

貧困する家庭は我々の想像する以上に多い。このCHAMP例会でも以前ゲスト参加の北川良明さんから『母子世帯の居住貧困』（葛西リサ著）という本が発売されるというニュースを紹介頂いた、丁度その頃のことである。

■初めの「課題」は実施する意義

→ コンセプトは“ほんものの食事”

子供1人1ヶ月の食事は90食。一方我々が当面できるのは精々月1～2回、それでやる意味があるのか（焼石に水では）という事。それでもやる意義があるとすれば？…量ではなく質を提供する事ではないかという思いに至った。

母子家庭は我々の想像する以上に多く、又、そうでなくとも共働きの家庭であればタイパ（タイムイズマネー）、コスパを考えてしまい、レトルト食品、袋物、冷凍ものなどインスタント食品頼みになり勝ち。それらを提供するメーカーは、商品を安く、美味しく、見た目もよく長持ちさせるため、多様な人工的な添加物も使っている。それをチンして食すことに。

子供は好き嫌いが多いと言われるが、本当はそんなことはない。ほんもの味、美味しいものはトマトでも、ピーマンでも人参でも、魚でも残さず食べる。そこで、日本人の舌が狂ってしまう前に、本当に良いもの美味しく安

全なものを知ってもらおう。それも子供より先に親に本物の味を知ってもらおうのが先決である。それをコンセプトに展開する事に決めた。

皆さんご存知「味吉兆」のご主人が、“まともな食事提供”のコンセプトに賛同してくれ、3回目くらいから一緒にやってくれるようになる。一流のプロの料理人もコアメンバーに入ってくれているので今に続いている。素人だけでは今のクオリティーはとても保てない。

■実施状況、メニューなど詳細は配布した開催リストに記載

掻い摘んで報告すると開催は7年前からほぼ月一回でこの4月まで54回開催。役員スタッフ延べ740人、大人の参加者延べ650人、子供延べ970人、総計2,400人ほどになる。

メニューは中華から手巻き寿司、サンマの塩焼き、肉じゃが、おでん、散らし寿司、ハヤシライス、皆でおにぎり、ヒレカツカレー、オムライス、稲荷寿司、コーンご飯など多岐に亘り、季節や時の旬な材料、状況に合わせてどれも“本物”を提供して来ている。

▶ 苦労話も含めた詳細をお話し頂いたところで、メンバーから質疑、感想などを発言。

ーボランティアで食事の質を求めて40~70人が毎回集まって開催する。それをほぼ毎月長年に亘って継続するとは凄いこと。正に勲章ものと思う。

ー発案者からコアになって進めている人はどの様な人が何人くらいで引っ張っているのか？またその役割分担などは？

・会長、金の調達役、広報役、道具係、料理係など数名で、それにスタッフがついて十名から十数名が役員となって活動している。（私は専ら道具係で、茶道具から杵と臼、流しそうめんの竹樋などまで）

ー進めて来てみて、社会的な変化とか効果の程はどの様に見ているか？

・子ども食堂と言えるものは大阪市北区だけでも現在30位はあると思う。大小様々でそれぞれ特徴を持って出来ることをやっている。小さいところでも横に繋って曜日をずらしてどこかが開いているようにするなども、上手なやり方だと思う。

■ 一頻り話したところで、今回の幹事仕様の音頭によりシャンパンで乾杯し、30分遅れの食事タイムに移り、食事しながらメンバーそれぞれ近況報告を簡単にしました。

ハワイ旅行しまウイ島ラハイナの山火事後の復興状況の話。能登半島地震の応援で富山県の氷見へ旅行した話、和倉温泉へ助成金も活用して宿泊したなど。一方「光る君へ」ではないが、変体仮名の妙なども含め、ひらがなこそは日本の独自の文化と考えつつ目下独学中等など。又、会員の自費出版「おばあちゃんの名前は珠子といひます」100歳になる京都市育ち京都暮らしの本の紹

介。『50歳からの住まいプラン』朝日新聞出版（CHAMP関西支部メンバーである）加納義久氏 監修 発行のことなど。

最後に山本代表より、東京では「次世代CHAMPの会」が会合を行い、今後に続けるための様々なアイデアを展開している（Newsletter102号参照）。関西支部のメンバーも何か良いアイデアがあれば提案してほしい旨の話があった。 以上（共同幹事：岡田優 記）

■次回は9月17日（水）神戸「外国倶楽部」にて、幹事：前田潤様 / 話題提供：浅野静様「（仮称）建築家から見た防災のすすめ」です。



新アプリDiscord勉強会を開催

検討中の「次世代チャンプの会（仮称）」で有力なコミュニケーションアプリになると期待されている Discord（ディスコード）の勉強会が湯浅信吾会員の主催で開催された。（表紙写真参照）

日時：4月21日日曜日 14:00~16:00

場所：港区立生涯学習センター、参加者は約15名、

Discordは日頃会員間の会話に使用しているLINE、例会などの会議に活用しているZOOMの機能に加えてオンラインコミュニティ形成のためのいろいろな機能を持っているマルチ機能の最新アプリである。

Discordの最も大きな魅力は無料でテキストチャット・ボイスチャット・ビデオ通話機能が利用できることだ。テキストチャットはもちろん、仲間とボイスチャットを楽しんだり、リモート会議などで利用できるビデオ通話機能が標準機能として利用可能である。

多人数のコミュニティのオンライン交流に適しており、中に趣味や勉強や交流の多くのグループをつくることができ、自由に参加できる。

当日は自分のPCやスマホを持ち込んで、湯浅会員の指導を受けながら、アプリのインストールから始まり、ログインの方法、実際の利用の仕方などを学んだ。シニア世代の会員が習得するには時間が必要そうであるが、今後のチャンプの展開のために頑張りを期待したい。

（文責：中林）

「次世代チャンプの会（仮称）」に関する運営委員会報告

以下は、「次世代チャンプの会（仮称）」からの提案を協議するために開催した運営委員会の記録です。安斉運営委員長が議事概要をまとめて下さいました。今後のチャンプの方向性に大切な内容ですのでご一読下さい。

■チャンプ運営委員会議事概要

日時：7月2日（木）14:00～17:00 新橋生涯学習センター
出席者：安斉洋一、上野、高橋、手島、中林、宮尾、山田信子、山本

安斉洋一運営委員長の冒頭コメント：

- ・アクティブなシニアを会員対象とし、経験と知識を分かち合い、会員相互の交流と自己啓発、社会の役に立つ活動を目指してスタートしたチャンプの設立趣旨を維持しながら、年齢制限を無くして多世代に呼び掛けるかどうかという点は、論点の一つである。
- ・次世代チャンプの会が提案している全国への会員募集や会費の値下げ等、現在の組織を拡大する場合の運営形態をどうするかを十分検討する必要がある。
- ・20代、30代、40代に呼び掛ける際のスローガンの例として、ボランティア、生涯学習、共助が提案されているが、具体的な中身を検討する必要がある。
- ・次世代チャンプ会員の提案を実現するには、強いリーダーシップと十分な準備期間が必要である。若い人達が考えて動かないと駄目である。次世代チャンプ会員で運営委員会を設け、検討を重ね、今後の進め方をどうするのか、議事録で様子を知らせて頂くと良いと思う。
- ・現在のチャンプを維持すれば良いと考えるシニア会員にどう対応するか検討する必要がある。その場合、個人正会員である50才以上の会員増加への呼びかけをどうするかも課題である。
- ・若い世代の中には成熟人という言葉に対して違和感を持つ人がいるのではないかと。

運営委員1発言：（発言順序は順不同です）

- ・チャンプは実質的に山本代表が主導する会であるという印象を自分は持っている。
- ・参加して楽しいことが会員増強の誘因だ。
- ・自分は在住区で自治会に携わっているが、近年ボランティア活動を担う人が減っているように感じる。
- ・チャンプに対して敷居が高いと感じている人も居るようだ。
- ・チャンプの実働会員が減ってきており、活動の見直しが必要である。活動会をもっと活発にする必要がある。

運営委員2発言：

- ・自分と考え方・意見が異なる会員に出会えたことが自分にとってチャンプの会員であることのメリットであると感じた。新しい人たちにこのことを伝えたいし、違う世界の人たちと会って話し合うことの楽しさを若い人たちに伝えたい。

運営委員3発言：

- ・退職後のシニアが、設立趣旨に沿って活動してきたチャンプであるが、年齢制限を外したチャンプということになると、従来からのチャンプはどういうことになっていくのだろうか？ 従来のチャンプと次世代会員が描いているチャンプ像は一緒に出来ないように感じる。二つが並行して動いていかざるを得ないのではないかと。これまでのチャンプが中心になって新しいチャンプを引っ張っていくのは無理だと思う。新しい世代が新しいチャンプを目指し、これまでのチャンプは無理をしないで行けるとこまで行くという姿になるようにも感じる。

運営委員4発言：

- ・チャンプでは、自分が楽しめることが有れば楽しむということが良いと思う。
- ・若い人たちが考えているチャンプ像と我々が捉えているチャンプは違うように感じる。今までのチャンプを受け継いでゆく

か、変えていくか。但し、何かが出来てゆくのなら、それなりに良いことなのかもしれない。

運営委員5発言：

- ・チャンプでは、異業種の世界の人たちと交流できたのが最大のメリットであると感じている。
- ・これからのチャンプの在り方については、若い世代が主導的に取り組むべきで、若い世代が自分達で動かないと駄目である。我々が手伝える余地はないように思う。

運営委員6発言：

- ・次世代チャンプ会員の提案は、現在のチャンプ活動とは異質のものを感じる。まだ初期的な段階で、煮詰めなくてはならない課題が多いように思う。果たして成り立つのか疑問も感じるが、皆の意欲があるなら、もう少し格好がつくように検討を進めて欲しい。今のチャンプの活動内容と、若い世代が考えるチャンプとはどこでつながるのか、つながりようがないのか。つながることが出来るのなら、それはそれで結構だと思う。つながりが持てないのであれば、並行してゆくことになる。
- ・今のチャンプとどうつながるのか、次世代チャンプ会員の検討結果を知らせてもらいたい。
- ・スローガンの一つである「共助」には分かりにくい面がある。

運営委員7発言：

以上の運営委員の発言後に、「山本覚書」（下記）が配布され山本代表が説明した。

■2024年7月2日火曜日運営委員会への山本覚書

チャンプ設立主旨：経験と知識を分かち合い、会員相互の交流と自己啓発、更に社会の役に立てる活動を目標にする。～21世紀を助け合いと自立した生活で～ みんなで楽しく、自分と社会の向上に寄与する豊かなマチュア（成熟）エイジをおくる
(注：マチュア（成熟）エイジという表現は要修正となろう)

1. チャンプの設立主旨と目標は維持する：当主旨・目標は、年齢を問わず、全世代にアピールするでしょう。
- ①経験と知識の分かち合い：100名余いるチャンプシニア会員が自分達の経験と知識を次世代会員に伝え、各々の自己啓発と楽しみにする。現在の「活動会＝共に学ぶ会」を更に拡大・増やす→交流の場が広がる。

★新活動会を考えてみよう！ 多世代の潜在会員への呼びかけ：面白い、自分の役に立つ活動など。

デジタル教室（スマホ・AI等の知識を増す教室など）、スピーチ教室（自己発言・表現力の育成）

各種趣味の教室（絵画・陶芸・舞踊・楽器演奏など）

人命救助の教室（災害に備えた身近に役立つ初歩訓練と知識など）健康促進の教室（生活習慣の改善など）、etc.

②自己啓発と助け合いを通じた社会貢献：

楽しみながら、教えて、人助けできれば、自ずから社会貢献する活動となるであろう。人との交流が自己満足ではない活動を生み出す。交流の輪を広げて、自らの人生をより充実させよう。

2. 全国規模の「チャンプ・ユニバーサル」の構築提案：

チャンプ27年の歴史と実績を踏えて、多世代チャンプの構築を提案します。まずは日本全国を対象とし、将来は全世界を視野に入れた活動の展開も考えてみましょう。

地球人類の未来・存続が懸念され、第三次世界大戦の可能性さえ耳にする昨今であるからこそ、人間性を信じ、これからの地球世界を平和に維持できるのは今生きている私達自身だと思います。お力添えをお願い致します。

★その後更に討論し、最終的には運営委員会全体として次世代チャンプの提案を実行・実施するのは次世代チャンプ会員に一任し、今後の具体的な実施案を提示してもらおう、ということとなった。（文責：安斉洋一）

ヒストリー（歴史）からストーリー（物語）を引き出す 「手描き人生マップ」クリエイターナオエダカナコ

皆さんこんにちは、ナオエダカナコ、本名は田邊直子と申します。

今日は私が専門としている「手描き人生マップ」についてお話しします。チャンプとのご縁ですが、横浜に住んでいましたが、子供が3才の時に離婚してどうしようかと思った



ときに「湘南台チャンプハウス」の記事を見つけ、シングルマザーにはうってつけの住まいだと喜んで2009年に引っ越してきて10年住まわさせていただきました。横浜から藤沢の学校に移って教員は20年やりましたが、3年前に再婚したこと、児童の保護者の対応に疲れたこと、集団ではなく個人と向き合う仕事がしたくなったこと、新しい職業を始めるのは今がチャンスと考えたこと、などの理由で教員を辞め「手描き人生マップ」の制作にチャレンジすることになりました。

マップはサンプルの図のように、その人のこれまでの人生の流れをを手描きのイラストと短い説明で1枚にまとめたものです。最近では自分史を出版する人も増えていますが私のマップは1枚に要約されていてイラストを楽しみながら一目でその人の人生がわかるのが特徴です。作り方は ①依頼を受ける ②本人にインタビューしてこれまでの人生を聞き出す ③ラフスケッチをつくり内容を確認 ④清書 ⑤修正対応 ⑥納品 となります。人生マップをつくると何がいいのでしょうか、①自分の人生を改めて振り返ることができます、②自分自身を知り、自分の人生を誇りに思えるようになります。できたマップはどのように役に立つのでしょうか。①自分のことを一目で人に知ってもらえます、②名刺のかわりに、③施設入所

などの際に自己紹介資料として、また部屋の壁に掛けておくこともできます、④マップを見ながら話題がはずむ、⑤葬儀や法要の時に飾れる、⑥子供や孫達に残す資料になる、などです。質問への回答文書だけでも作成できますが、大事なのは直接のインタビューですね。お顔を合わせて聞き出してゆくとご本人も忘れていたようなことを思い出したりして、自分の人生を再認識する良い機会になるようです。

費用は、インタビュー無しでスタンダードタイプで55,000円、インタビュー有りのバリュータイプ

で110,000円で、これが多いです。納期は最低2週間いただいています。大きさはA4で1枚が基本ですが、データでお渡ししますので印刷で大きくも小さくもできます。2023年に東京入谷のカフェ「レボン快哉湯」で個展をひらきました。いろいろな人の「手描き人生マップ」を展示したのですが、それを見た若い人が「いろんな人生があって面白い、私のこれからの人生の参考にしたい」という感想をくれたので、マップは「選択肢の多い今の時代に《いろいろな生き方がある》ことを知り人生のヒントにもなる」ということに気がつきました。マップを名刺または自己紹介に使用したいという若い人からの依頼もあり驚いています。

これからのことですが来年50才になるのでまた個展をやってみようと思っています。

・メールアドレス naoedakanako@gmail.com

(以上は例会でのナオエダさんのスピーチの概要です。
文責：中林)



